

# 多重債務者相談から見える格差の広がり

—生活のために借りる中高年—

借金のきりかけは「生活」・「事業資金」が大半

2百万人を超えると思われ、摘み取られている多重債務者の問題を解決するため、政府の対策本部は、昨年四月、多重債務者問題改善プログラムを決定しました。そのプログラムにそって、県は7月に「山形県多重債務者対策協議会」を設置し、関係機関や団体、市町村などと取り組みを進めています。

た。相談者の年齢は、40代、50代合わせて54.8%を占め、借金したきっかけは、低収入・収入の減少が40%、事業資金の補填が10.4%などとなっています。『サラ金から借りるのは若い人でギャンブルや遊びのため』という従来のイメージとは様変わりの実態が浮かび、『生活や教育費、そして自営業のやりくりのために借金をする中高年が多い』というのが現状です。

新たな多額債務者を「多額出さぬ社会・政治に

また、過払いになっっているにもかかわらず、知らないでいまだに高金利(グレーゾーン金利)に苦しんでいる方も存在していると思われまます。国の改善プログラムは改正貸金業法(06年12月成立)完全施行に向けて示されているもので、相談窓口の整備・強化、セーフティネットの貸付け提供、金融経済



2008年5月25日 第33号 発行  
日本共産党県議会議員 渡辺ゆり子 <連絡先>  
日本共産党県議団執務室 電話 023-630-3241  
自宅:山形市青田2-10-5 電話 023-642-2365

## 最先端の研究・技術と伝統のものづくりの現状

12日から14日まで、や織物の製造販売企業、常任委員会として村山・置賜管内の視察があり、自動車関連の企業、有機EL研究所、山形セレクトクシヨンのワイナリー



5月18日 地元・滝山地域の9条の会総会に参加しました。記念講演は、垂石啓芳・円応寺住職

時代の最先端の研究や工業技術に触れる一方で、伝統の掘りおこしや継承・産業化の苦労を目的にすることができました。たとえば、南陽市のワイナリーでは、ぶどう畑に案内されましたが、ぶどうを作る人がいなくなつて畑が年々減少して

## ゆり子の視点

「ふれあいバザー」で

18日、山形市内の障害者福祉サービスをおこなっているNPO法人らが合同で開催した「ふれあいバザー」に行ってみました。手づくりの手芸品や小物、パンやお菓子、野菜などが並べられ、それぞれ胸をはって「おいしーいよ」とかアピールしながら販売していました。こういった法人では企業の協力を得ながら、利用者の仕事の確保や運営に苦勞しています。それぞれ県や自治体も不十分なから支援してきました。しかし、最近、国は「自立」を強調し工賃倍増計画などの言葉もとびかっています。「私ら、こんな数百円の手マチマした製品を作つて売っている状況なのに」と不安の声が聞かれました。一般の企業でさえ、経営が厳しくなつてきているとき、まして障害者福祉サービス事業はしわ寄せを受けています。私たちも、事故や病気のためにいつ障がいを持つ当事者になるかわかりません。多くの皆さんに実情を知つて関心を持っていただきたいと思います。それが行政を動かす力にもなると考えます。